

神辺学区まちづくり計画



神辺本陣



菅茶山の廉塾



神辺城想像図（285年の歴史をもつ神辺城）

神辺学区まちづくり推進委員会

表紙写真 説明

○神辺本陣

本陣施設は、表門・表土堀・番所内蔵・内土堀と1746年(延享3年)建築の母屋(玄関・敷台・御成の間・二の間・三の間・札の間・湯殿)からなる。

大名宿泊の折には、平常居宅も加えその部屋数27、畳数200余枚を使用し、大名とその附添衆50～70人の収容が可能であった。

○廉塾並びに菅茶山旧宅

廉塾は1781年(天明元年)に菅茶山が開いた塾で講堂・寮舎・居宅・書庫・菜園・養魚池等があります。講堂は3部屋20畳敷で東に竹と板を組み合わせた濡れ縁と円形と方形にくりぬいた「方円の手水鉢」があり、高屋川から引いた水路を隔てて三室の寮舎があります。

○神辺城想像図

この図は、あくまでも「想像図」であることを、まずお断りしておきたい。

福山城には神辺城から移築されたと伝えられる建造物が数多くあり、それらを規模・名称・方位などを勘案し、黄葉山上の郭や城下に仮に配置したのがこの図である。地元の人たちがずいぶん昔から、ありし日の神辺城に思いを馳せ、さまざまな想像図を描いた中の一つである。

ここ40年ほどの間に、実戦機能を重視した中世山城の実態が明らかになるにつれ、中世に中心をおく神辺城が、「このように完備された近世城郭の姿であったはずはない」との判断から、図のようなイメージが全否定された時期があった。

しかし、近年の調査により、神辺城最終期の福島氏統治の時代、近世城郭に特有の瓦葺礎石建造物が存在し、瓦に広島城と同じ^{はんがた}范型で作られたものや、同じ家紋を描いたものがあるなど、本格的な近世城郭へと整備が進められていた可能性が指摘され始めている。

目 次

○はじめに	1	
○まちづくり計画 作業部会・策定委員会の運営	2	
第一章 神辺学区の概要		
1. 神辺学区の生い立ち	3	
2. 歴史遺産・史跡等	3	
3. 神辺学区の世帯数と人口推移	5	
4. アンケート調査から見る現状と課題		
(1) 神辺学区の現状と課題	6	
(2) まちづくりの現状と課題	6	
(3) まちづくりに対する住民の期待	7	
第二章 まちづくりの基本方向		
1. 計画策定に当たって	9	
2. まちづくりの果たすべき役割	9	
第三章 まちづくり活動の具体的展開		10
1. 社会福祉と健康づくりの充実	11	
2. 人権・青少年健全育成と歴史遺産の活用	12	
3. 安心・安全なまちづくりの推進	13	
4. 環境改善と美しい神辺の創造	14	
5. にぎわいと活力あるまちづくりの推進	15	
第四章 その他の課題		
1. 行政と協働で解決するもの	15	
第五章 まちづくり計画の推進体制		
1. 推進方法	16	
2. 推進体制の整備	16	
3. 推進体制	16	

は じ め に

神辺学区のまちづくりは、2006年(平成18年)3月に福山市と合併し、同年4月に「神辺学区まちづくり推進委員会」が誕生しました。 明るく住みよい地域社会をめざし、諸先輩や地域の皆様方の地道な努力のもと、今日まで積極的に展開されてまいりました。

現在、日本社会は大きな転換期を迎えています。 少子高齢化社会の到来、人間関係の希薄化、地方分権の進展、そして国・地方ともに財政状況が益々厳しくなる中、福山市では「第二次福山市協働のまちづくり行動計画」の策定がなされました。 地域社会の変革は神辺学区においても例外ではありません。

そこで、我々はこれまでまちづくりに取り組み培った経験を踏まえ、更なる安心安全で明るく住みよい地域社会の実現をめざし、行政主導・行政依存から住民自治へと時代の変革に備えた住民意識の構築と激変する地域社会に対応するため、「自助」「共助」「公助」の役割分担を理解し、学区民自らが「まちの将来像」を描く「神辺学区まちづくり計画」を策定いたしました。

策定に当たっては、2013年(平成25年)7月に策定委員会及び作業部会を設置し、検討・討議を重ねました。 2014年(平成26年)2月～3月に、これからのまちづくりの主役である地域の皆様方の声を聴くため「住民アンケート調査」の説明会を開催するとともにアンケート調査を実施いたしました。

この計画は、神辺学区のまちづくりを自分たちで考え、自分たちで取り組む活動方針や内容などを五つの分野に大別して具体的に示し、行政や各種団体と協議の上、地域に住む住民全員が目指す神辺学区のまちづくりの「道しるべ」とするものです。 なお、この計画は永年のまちづくりの成果を検証し、社会的環境変化、住民ニーズなど、新たな視点で見直しを図り計画いたしました。

計画の推進に当たっては、社会情勢の変化等に機敏かつ柔軟に対応しながら進めてまいります。 まちづくりは、計画を策定することもさることながら、推進体制を整え、いかに多くの活動に地域の皆様が参画してくださるかが成功・達成へのカギになると考えます。 神辺学区の皆様には本計画の趣旨をご理解いただき「神辺学区のまちづくり」へ積極的にご参加をいただきますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、本計画書の作成にあたり助言・ご指導・ご協力をいただきました関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

2015年(平成27年)6月

神辺学区まちづくり推進委員会

○ まちづくり計画 作業部会・策定委員会の運営

「神辺学区まちづくり計画」は次の方達のご協力により作成いたしました。

所属	名 前	所 属	所属	名 前	所 属
<input type="checkbox"/>	櫻井 敏郎	まちづくり推進委員会 委員長	<input type="checkbox"/>	出原 征造	自治会連合会 会長代行
○		自治連 会長・早王第一自治会長	○		埴南自治会長
<input type="checkbox"/>	中西 忠美	地域福祉部・自治連 副会長	<input type="checkbox"/>	新貝 操	環境衛生部
○		早王第二自治会長	○		女性会 会長
<input type="checkbox"/>	竹内 恵	まちづくり推進委員会 会計	<input type="checkbox"/>	妹尾 俊宏	まちづくり推進委員会 事務局長
○		総務・広報部	○		総務・広報部
<input type="checkbox"/>	安田 勝行	公民館長	<input type="checkbox"/>	岡崎 靖弘	環境衛生部
○		片山自治会長	○		公衆衛生推進委員会 会長
<input type="checkbox"/>	三和田道公	安全防災部	<input type="checkbox"/>	外谷 秀平	安全防災部
○		交通安全推進委員会 会長	○		学校防犯VR連絡協議会 会長
<input type="checkbox"/>	高橋 明子	人権・青少年育成部	<input type="checkbox"/>	菅田 舜治	健康体育部
○		子ども会育成協議会 会長	○		体育会 会長
<input type="checkbox"/>	昼田 英司	自治会連合会 事務局長	<input type="checkbox"/>	甲斐 勝	自治会連合会 会計
○		岩田自治会長	○		長畑3自治会長
<input type="checkbox"/>	新屋 勝治	自治会連合会 副会長	<input type="checkbox"/>	中山 雅人	自治会連合会 副会長
○		長畑1自治会長	○		三日市下自治会長
<input type="checkbox"/>	間賀 武昭	自治会連合会 副会長	<input type="checkbox"/>	藤井みどり	神辺公民館 主事
○		古市自治会長	○		
<input type="checkbox"/>	河相真由美	神辺公民館 主事	<input type="checkbox"/>	高林 正弘	神辺生涯学習センター 主事
○			○		
○	羽原 孔明	丙一自治会長	○	藤井 浩明	長畑2自治会長
○	延近 久弥	丁二自治会長	○	柏田 憲利	丁一自治会長
○	亀川 節男	町下一自治会長	○	重政 一之	町下二自治会長
○	菅 義一	川南宿舎自治会長	○	門田 幸夫	町上一自治会長
○	三島 仁志	町上二自治会長	○	三原 幸長	早王第三自治会長
○	大戸 博史	井之端自治会長	○	野路 和人	掛の宮自治会長
○	亀川 正道	領家自治会長	○	藤本 一郎	三日市上自治会長
○	若林 献一	後町自治会長	○	藤井謹一郎	七日市下自治会長
○	三宅眞一郎	七日市上自治会長			

※ ☐ : 作業部会 20名

○ : 策定委員会 37名

協力者 : 福山市神辺支所 神辺生涯学習センター

第一章 神辺学区の概要

1. 神辺学区の生い立ち

神辺町は、町内を流れる高屋川の沖積地が広がる住みよい地域です。古くから人々が生活を営み、現在まで連綿と歴史を築いてきた。とりわけ、歴代の守護が備後の国の守護所を置き政治を行い、城下町が形成され、通りには古市、七日市、三日市、十日町の定期市が開かれた名を残しています。しかし、長きにわたり備後の中心地であった神辺は1619年（元和5年）福山へ新たに福山城が築城され、宿場町へと変遷し、近世山陽道、石州銀山道、福山道、笠岡道が交わる交通の要所として栄えた。

江戸時代後期になると菅茶山が私塾「黄葉夕陽村舎」（のち「廉塾」）を開き多くの弟子を育て、また、多くの文人墨客が訪れ、藩内でも文化の中心的な場所となった。

明治以降、幾度かの行政区画の変遷があったが、1929年（昭和4年）川北村と川南村が合併して神辺町となり、さらに1954年（昭和29年）には、他の5カ村が合併し神辺町となり、2006年（平成18年）の平成の大合併によって福山市神辺町となった。

2. 歴史遺産・史跡等

○天別豊姫神社（あまわけとよひめじんじゃ）…豊玉姫命が祭神である。

天別豊姫神社は古くは「神辺大明神」・「甘濃厳大明神（かんのび…）」とも呼ばれていた。「神辺」の地名は当社に由来するものともいわれている。

平安時代中期の「延喜式神名帳」には「備後国安那郡天別豊姫神社」と記載され式内社に列した。建武年間（1334－1338）朝山景連が黄葉山に神辺城を築くにあたって当社を城の守護神とし、現在の黄葉山中腹に遷したとされる。

1868年（明治元年）福山藩の調査で式内社とされ、同2年公称を「天別豊姫神社」に定められた。

○神辺城と歴代大名

神辺城は、備後守護朝山景連が1335年（建武2年）に守護所を置き、1443年（嘉吉3年）山名^{じょうきゅう}又休が再築したと伝えられ、以後約100年間、備後守護山名氏一族の居城として推移した。1538年（天文7年）、大内氏方として神辺城を攻略した山手銀山城の杉原^{ただおき}理興が城主となり、1582年（天正10年）、毛利氏の直轄となるまで、備後最大の勢力、杉原氏一族の居城であった。この間、理興の寝返り、大内氏の熾烈な神辺城攻撃、理興の出雲への脱出・帰還等々、数々のエピソードが伝えられている。関ヶ原合戦（1600）後、安芸・備後を領有した福島正則の家老、福島正澄^{まさずみ}の居城となったが、1619年（元和5年）、福島氏改易によって、備後10万石の領主となった水野勝成が入城した。勝成は入城間もなく、時代の情勢に即した新たな政治・経済の拠点づくりに着手し、1622年（元和8年）、完成した福山城へと藩政の拠点を移し、神辺城は終焉を迎えることとなった。

黄葉山上には25か所の郭が残り、斜面には戦国時代の竪堀がみられる。福島氏の

時代には、郭に高石垣、礎石をもつ瓦葺の櫓などが造られ始め、近世城郭として整備されつつあった。黄葉山の北麓には、戦国時代に城主の居館、家臣団の屋敷や、山陽道に沿って七日市などの町屋が現れ、福島氏の時代に入って、城下での掘割の整備も進められていたようである。今に残る字名や地割、近年の発掘調査によって神辺城下町の様子が次第に明らかになりつつある。

○廉塾並びに菅茶山旧宅

廉塾は1953年(昭和28年)に国特別史跡に指定されている。

なお、2014年(平成26年)には、菅茶山関係資料一括5,369点が国重要文化財に指定された。

菅茶山は、酒造業を営み東本陣の主人も務めた菅波櫓平と半の長男として、備後国安那郡川北村(現在の福山市神辺町川北)に生まれた。

19歳のとき京都に遊学し、儒学(朱子学)・医学を学んだ。京都・大阪への遊学は6回に及び、頼春水や多くの漢詩人・儒学者などと交友を深めた。

1781年(天明元年)頃、神辺川北に私塾『黄葉夕陽村舎』を開き、1796年(寛政8年)には福山藩弘道館の郷校となり、『神辺学問所』『廉塾』として明治維新の学制改革まで機能していた。頼山陽も廉塾の都講を務めたことがある。

1801年(享和元年)、福山藩の儒官となり、2度、江戸へ赴き、元老中の松平定信、伊能忠敬など多くの文人墨客との交友関係を広げた。菅茶山の代表的な著作には漢詩集「黄葉夕陽村舎詩」と随筆「筆のすさび」がある。漢詩では、写实的・抒情的・平明な詩風を大成し「当世随一の漢詩人」と評され、当時のベストセラーであった。随筆では見聞きしたことが感性豊かに滲み出る様な著であると高く評価されている。

菅茶山の名声は日本全国に反響をもたらし、1800年代文化・文政年間には、多くの文人墨客が菅茶山・廉塾を訪れている。菅茶山の豊かな感性・温厚な人物像・地域貢献・社会貢献は今も巨星として輝いている。

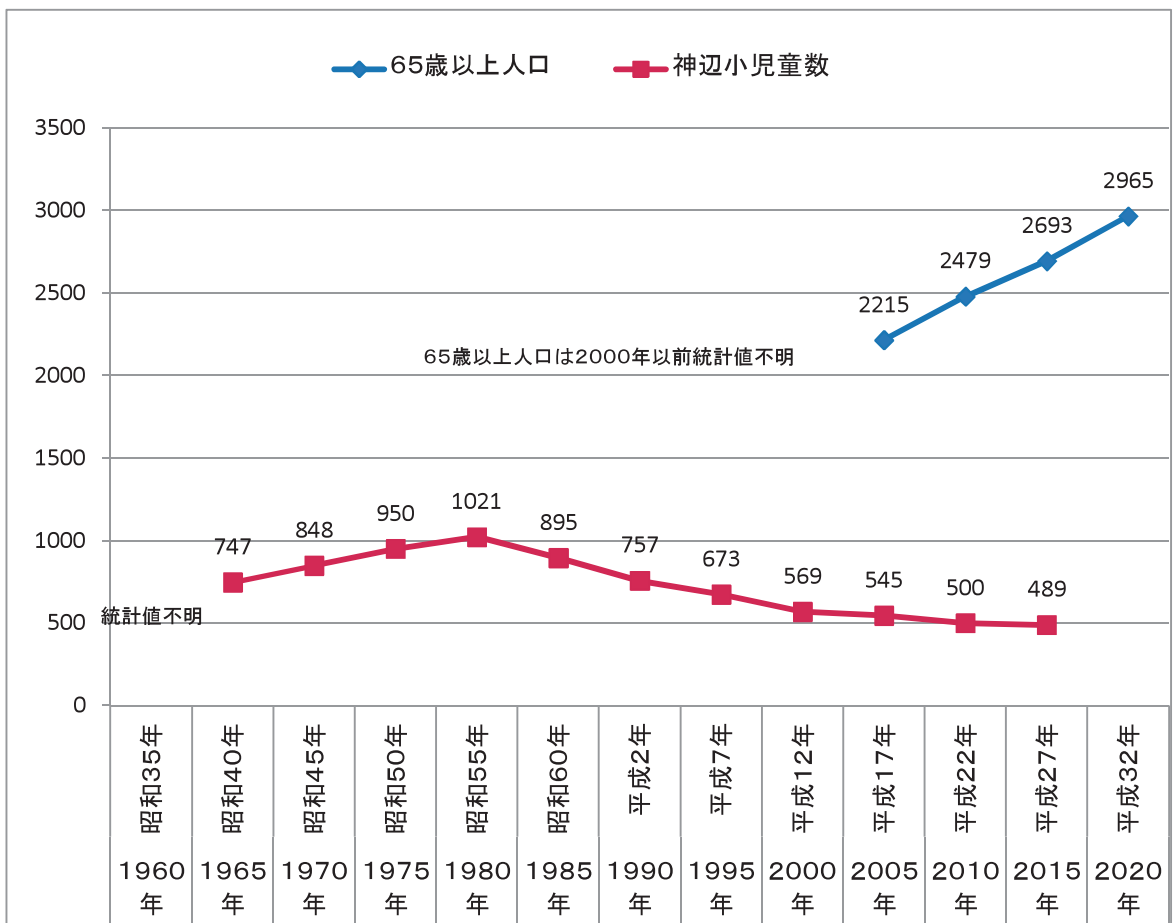
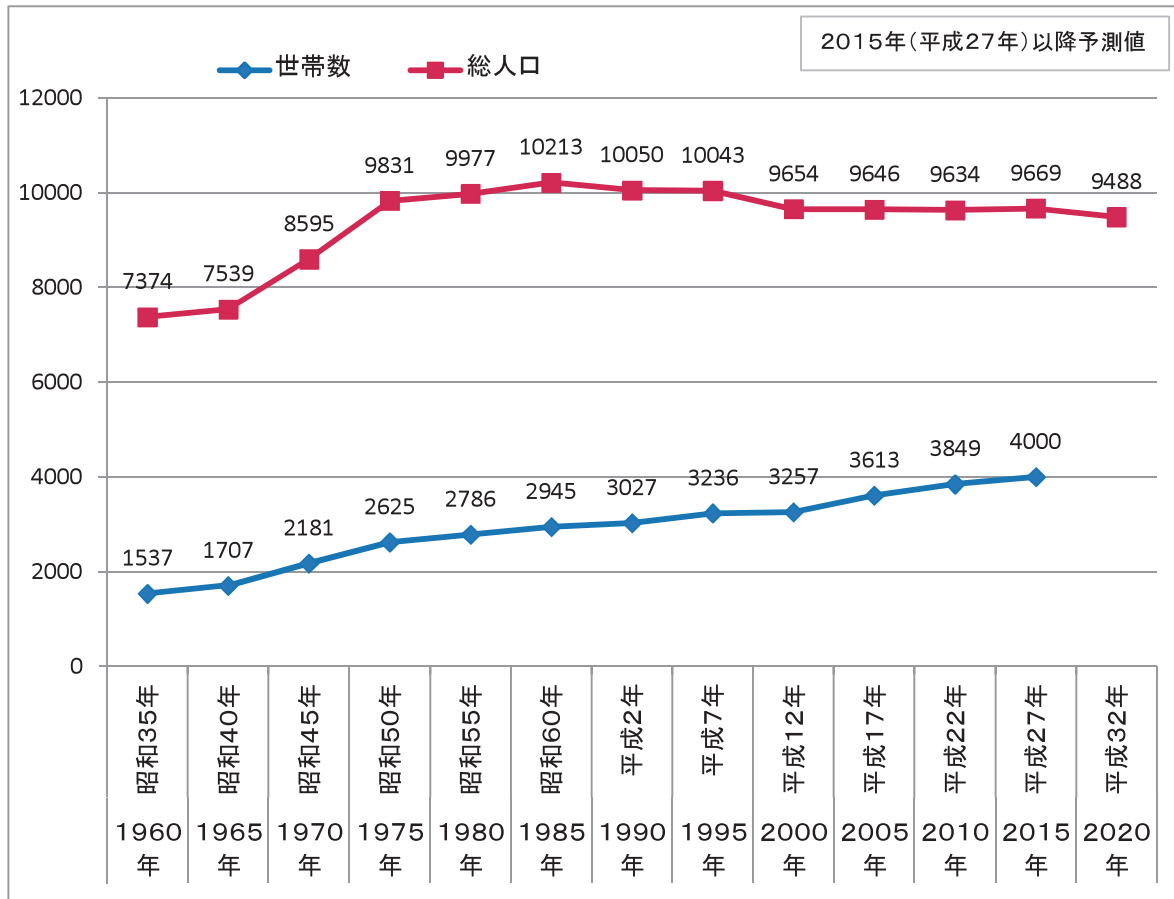
○神辺本陣

江戸時代の神辺宿は、東は高屋駅と西は今津駅との間に位置する、山陽道の宿駅であり、江戸まで30日、長崎まで15日を要した。

宿駅の任務は幕府御用通行や参勤交代大名通行等のために、宿泊・休憩や物資輸送の継立を果すことにあった。神辺駅は川北・川南の両村にまたがっており、宿駅としての勤めは、川北村が月の上旬十五日、川南村が月の下旬十五日と交替で務めた。

宿泊・休憩は本陣や町屋が使用され、万延二年の黒田家の通行は総人数580人で、神辺本陣は藩主と供連衆54人、その外の供連衆は86軒の町家に分宿した。また、大量の物資輸送に際しては、人馬を「寄せ馬人足制」によって、神辺駅近傍の村々から調達しその村として旧神辺町内では、川北・川南・平野・竹田・八尋・御領・湯野・徳田・十九軒屋・道上村等が指定されていた。しかし、箱田・中条・三谷村等は、天領であったため免除されていた。

3. 神辺学区の世帯数と人口推移



4. アンケート調査から見る現状と課題

この度、神辺学区内在住で自治会加入2850世帯を対象にした、アンケート調査を実施した結果から次のような事がうかがえる。

(1) 神辺学区の現状と課題

ア 神辺学区の現状

- (ア) 福塩線神辺駅は福山駅より13分、約10kmの所に位置し、福山市の住宅地として発展している。人口は約1万人前後まで増加したが、道路網・下水道・公園等の整備が遅れ、多くの人々が生活に不便をかんじている。
- (イ) 有名な歴史・文化遺産(本陣・廉塾等)があり住民の誇りと心の支えになっているが、その貴重な遺産の活用が十分とは言えない面がある。
- (ウ) 当学区も例外なく少子化が進み小学校の児童数が多い時の半数以下になっている。
- (エ) 少子化の半面、高齢化が著しい勢いで進んでいる…65歳以上 30%弱。
- (オ) 核家族化が進み2人以内の家庭が40%強になっている。

イ 神辺学区の課題

- (ア) 無秩序な開発が進み、道路網や下水道・公園等の整備が遅れている。
- (イ) 高齢化が進み、まちづくりや自治会活動に多くの課題が発生している。
- (ウ) 歴史や文化遺産の活動に対して、70%程度の人々が普通又は満足しているが分からない人もかなりあり、学区としてのPRが不十分である。

(2) まちづくりの現状と課題

ア まちづくりの生い立ち

- (ア) 神辺町当時は各団体(既存の民主団体・ボランティアグループ)毎にそれぞれの目的により活動を展開していた。
- (イ) 2006年(平成18年)3月1日福山市との合併と共に、福山市の「協働のまちづくり事業」の推進に向け「神辺学区まちづくり推進委員会」を結成した。
- (ウ) 「神辺学区まちづくり推進委員会」は自治連三役と構成団体の代表と公民館を主体として、29団体32名(重複除く)で活動を開始した。
- (エ) 現在「まちづくり推進委員会」32団体37名で活動している。

イ まちづくりの現状

- (ア) ゴミ問題などの生活環境に80%弱が普通・ほぼ満足と感じている。
- (イ) 健康づくり・福祉対策・医療サービスに対してわからない・無回答の無関心層が25%もある。

- (ウ)子育て支援・学校教育・生涯学習に対して分からない・無回答が約35%あり、関心が薄い。
- (エ)イベントや自治会活動・生活環境に対しては80%近くが理解している。
- (オ)学区のまちづくり活動には大多数が何らかの行事に参加経験がある。
- (カ)子ども見守り活動は評価が高く、継続を希望すると共に、感謝している人が多数いる。
- (キ)急病・災害時の対応について約半数が不安を感じている。

ウ まちづくりの課題

- (ア)まちづくり事業の必要性は浸透しているが、運営について理解していない人が多く、もっとPRの必要がある。
- (イ)子どもが安心して遊べる公園や広場がなく多くが設置を強く要望している。
- (ウ)住民学習(差別・人権)に対して無関心の人が多く、意義をPRすると共にやり方を工夫する必要がある。
- (エ)高齢者問題・子どもの虐待、いじめ問題・障がい者問題などについて住民学習は多くの人々が望んでいる。
- (オ)高齢者は病気・ケガ・介護・買物等の生活に不安を感じている。
- (カ)緊急時・災害発生時の対応に対して危険個所の把握や組織の整備が不十分。
- (キ)全ての団体で世話人(役をする人)がなく後継者の育成が急務である。
- (ク)今後の活動は部会の活性化を図ると共に、①継続して活動するものと、②新たな問題点を見つけて解決するものに分けて取り組む必要がある。
- (ケ)子育てについては、「子どもがいないので分からない・無回答」が36%と最も多く無関心な人が多い。

(3)まちづくりに対する住民の期待

ア 高齢者・障がい者に対する福祉対策。

- (ア)急病・ケガ等の緊急時の対応力の向上。
- (イ)介護や買い物等の日常生活の不安解消。
- (ウ)災害発生時の安心・安全に対する問題の除去。
- (エ)介護施設の充実。
- (オ)声掛け運動及び見回り活動の充実。
- (カ)寝たきりにならないために健康教室・サロンの開催。



胸骨圧迫式心肺蘇

イ 青少年健全育成対策

- (ア)子ども見守り活動は約70%が評価しており、継続を望んでいる。

- (イ) 子育て支援の充実。
- (ウ) 公園・広場等の子どもの居場所づくり。
- (エ) 地域ぐるみでの取り組み強化。
- (オ) 交通事故防止対策や交通ルールを守る啓発活動。



神辺小児童の登下校見守り活動

ウ 安心・安全対策

- (ア) 緊急時避難体制の確立。
- (イ) 実態に合った避難マップの作成と避難訓練の実施。
- (ウ) 平素の近所づきあいにより助け合い体制の確立。
- (エ) 災害時の情報連絡及び要援護者支援体制の充実。
- (オ) 交通ルールやマナーを守る啓発活動。



バケツリレー(消火訓練)

エ 歴史・文化遺産対策

- (ア) 貴重な遺産をまちおこしに積極的に活用する。
- (イ) 現在維持管理等の活動をしている団体や行政・関係諸団体と連携を密にして横の繋がりを強化する。

オ 環境問題

- (ア) ゴミ出しは比較的きちんとされているが、まだ、分別が徹底されていないので、尚一層の啓発活動が必要。
- (イ) 地域と連携を密にして花一杯運動などの推進。

カ 活力あるまちづくり

- (ア) 学区民体育大会・盆踊り大会・ふれあいまつり・とんどまつり等の充実。
- (イ) 広く意見をつのり、参加しやすい事業の発掘。



綱引き(学区民体育大会)



とんど祭り

キ 人権教育及び住民学習

- (ア) 高齢者・障がい者・子どものいじめ問題については大多数が望んでいる。
- (イ) 差別問題については無関心層が多く内容や方法の検討が必要。



人権住民学習

第二章 まちづくりの基本方向

1. 計画策定に当たって

(1) 計画策定の趣旨

この計画は、これまで行った事業の成果や課題を踏まえ、更なるまちづくりの推進を図るために、地域住民の幅広い声を反映したまちづくりの方向性と将来像を定めたまちづくりの「道しるべ」とするものである。

(2) 目標年次

このまちづくり計画は2016年度(平成28年度)までに目標を定め、2019年度(平成31年度)までに事業を完了とするが事業によっては継続するものもある。

(3) まちづくり計画の基本体系

- ① 自助…学区民自ら主体的に取り組むもの
- ② 共助…学区民同志が地域で協力し合って取り組むもの
- ③ 公助…私たちだけでは難しく行政の支援が必要なもの

2. まちづくりの果たすべき役割

(1) にぎわい・活力・更なる絆づくり

- ア 神辺学区では、各種団体が多種多様な事業を展開している。
- イ 推進委員会では、これらの事業を積極的に支援し、地域住民の人と人との交流や絆を強めるまちづくりに努める。

(2) 住民ニーズに沿った新たな潮流事業の創造

- ア 継承事業(学区民体育大会・子ども見守り活動・盆踊り大会等々)は内容を見直し、更なる充実に努める。
- イ 新たな潮流事業として、住民ニーズに沿った事業の創造に努める。

(3) 誰もが神辺学区に住んで良かったと思えるまちづくりに努める。

- ア 少子高齢化が進む中、誰もが安心して安全に生活でき、住んで良かったと思えるまちづくりに努める。
- イ 郷土の資源や環境の保全に努め、後世に引き継ぐまちづくりに努める。

(4)住民の「協働のまちづくり」への意識改革

これまでの行政主導のまちづくりから、地域と行政がお互いの責任と役割を分担しながら地域の特色を生かした住民主導のまちづくりへの意識改革を図り、実践活動を通じ根付かせる。

第三章 まちづくり活動の具体的展開

～ まちづくり計画を具体的且つ効果的に推進するために

五つの部会に再編して展開します ～

1. 社会福祉と健康づくりの充実

～ おもいやりの心を持ち、健康でゆとりある社会を作ろう ～

2. 人権・青少年健全育成と歴史遺産の活用

～ お互いを尊重し、元気な神辺っ子を地域で育てよう ～

～ 歴史遺産を活用した心豊かなまちづくり ～

3. 安心・安全なまちづくりの推進

～ みんなでつくろう 安心・安全な町 かなべ ～

4. 環境改善と美しい神辺の創造

～ めぐみ豊かな自然を愛し、快適な環境づくり ～

5. にぎわいと活力のあるまちづくりの推進

～ にぎわいの創出による活力と絆づくり ～

1. 社会福祉と健康づくりの充実

(1) 基本的視点

- ①急速な少子高齢化の進行や核家族化並びに高齢者世帯の増加により、地域のつながりや人間関係が希薄化する中で、全ての住民が心豊かな生活ができる環境を整備する。
- ②健康で活力に満ちたまちづくりを推進するために、みんなの創意工夫で諸事業・行事に積極的に参画する人づくりに努める。
- ③健康寿命の向上をめざし、諸団体・サークル活動の支援に努める。

(2) 主な事業の展開方法

- ①高齢者・障がい者の交流や子どもを交えた世代間交流づくりに努める。
- ②高齢者や障がいをもった人たちの社会参加や生きがいづくりの場の拡大・充実。
- ③誰でも気楽に参加できる軽スポーツの企画に努める。

(3) 具体的な事業と役割分担及びスケジュール

事業名	事業内容	新規	役割分担		主管	スケジュール		
			住民	協働		短期	中期	長期継続
新年のつどい	余興・ゲーム			○	老人クラブ連合会	○		
	懇親(ぜんざい)		○			○		
すこやか会 高齢者のつどい	健康診断・余興ゲーム			○	福祉を高める会		○	
敬老会の充実	余興・ゲーム等			○	実行委員会			○
高齢者給食配達事業	昼食配達サービス		○		福祉を高める会			○
サロン活動の拡大	各団体 創意工夫			○	自治会			○
	生きがいと絆づくり		○					○
学区民体育大会	自治会対抗競技		○		健康・福祉部			○
	住民参加型競技		○					○
	種目の工夫で活力の創出			○			○	
世代間交流ウォーキング大会	ウォーキング・ゲーム		○		福祉を高める会		○	
GGナイトリーグ	グラウンドゴルフ ソフトボール		○		体育会			○
自治会対抗小学生 駅伝大会	男女別自治会対抗 うどん接待		○		体育会			○
各種団体GG大会	グラウンドゴルフ		○	○	各種団体			○
新規事業の発掘		○		○	健康・福祉部		○	

2. 人権・青少年健全育成と歴史遺産の活用

(1) 基本的な視点

- ①高齢者・女性・障がい者・子どもや外国人など、あらゆる人たちの人権が尊重される地域社会の実現をめざし、啓発活動に努める。
- ②神辺学区には、有名な文化遺産や史跡があります。この先人たちから受け継がれてきた遺産を後世に継承するとともに、この貴重な遺産を活用して地域の活性化と住民の絆づくりに努める。

(2) 主な事業の展開方法

- ①道理に合わない習慣やしきたりなど身近な課題について研修し、正しい人権意識の高揚に努める。
- ②本陣・廉塾などの保存団体と協力体制の構築に努める。

(3) 具体的な事業と役割分担及びスケジュール

事業名	事業内容	新規	役割分担		主管	スケジュール		
			住民	協働		短期	中期	長期継続
人権住民学習会	住民学習会の活性化			○	人権啓発推進協議会			○
子どもの健全育成	レクリエーションスポーツ		○		子ども会育成協議会		○	
	デイキャンプ		○				○	
青少年健全育成と非行防止	繁華街夜間パトロール		○		青少年育成協議会		○	
	イベント会場パトロール		○				○	
とんどまつり	とんどまつりの継承		○		おやじの会		○	
学区民ふれあいまつり	芸能発表・展示会		○		実行委員会			○
	ふれあい行事			○				○
盆踊り大会	神辺二上り踊りの伝承		○		実行委員会			○
	諸々盆踊り・抽選会		○				○	
	全員参加踊りの活性化			○			○	
文化遺産・史跡の維持管理	神辺本陣の維持管理			○	教育・文化部		○	
	廉塾の維持管理			○			○	
史跡・文化の伝承	歴史講演会の開催	○		○	教育・文化部		○	
	史跡めぐり	○		○			○	
	歴史遺産の広報活動	○		○			○	
新規事業の発掘		○		○	教育・文化部		○	

3. 安心・安全なまちづくりの推進

(1) 基本的な視点

- ①安心安全で快適な生活を送るため、関係諸団体と連携を密にして、防火・防災・防犯などの意識の高揚を図ると共に住んで良かったと思えるまちづくりに努める。
- ②万一の自然災害に対して、住民一人ひとりが高い見識を持ち向こう三軒両隣で助け合い、被害を最小限にとどめる環境整備に努める。

(2) 主な事業の展開方法

- ①自治会ごとに豪雨・地震・台風などの災害別避難方法や安否確認について向こう三軒両隣が協力して対応する環境整備に努める。
- ②関係諸団体と連携し、講演会や防災訓練・避難訓練を行い、災害に備えた環境整備を行う。
- ②通学路の中で危険個所を見直すとともに、子ども見守り隊の拡大に努める。

(3) 具体的な事業と役割分担及びスケジュール

事業名	事業内容	新規	役割分担		主管	スケジュール		
			住民	協働		短期	中期	長期継続
子ども見守り活動	見回り活動の継続		○		学校防犯VR連絡協議会			○
	範囲拡大と会員増強		○					○
交通安全教育の推進	神辺小児童自転車教育			○	交通安全自治会・推進隊		○	
	高齢者安全運転教育			○			○	
自主防災活動の強化	防災マップづくり			○	自主防災組織・自治会連合会		○	
	避難計画の確立	○		○			○	
	避難訓練の実施	○		○				○
	講演会等で啓発活動	○		○			○	
	要支援者体制の強化		○					○
火災予防運動	防火設備の点検		○		防火協会神辺支部			○
	防火意識の啓発		○					○
危険個所の点検パトロール	カーブミラーの点検	○		○	安全・防災部		○	
	標識の見直し	○		○			○	
防犯装置の検討	防犯灯設置個所の見直し		○		安全・防災部		○	
	防犯カメラ設置検討			○			○	
新規事業の発掘		○		○	安全・防災部		○	

4. 環境改善と美しい神辺の創造

(1) 基本的な視点

- ①ごみの分別やごみステーションへの正しい出し方など身近な問題から取り組み、環境に対する意識の醸成向上をめざして、個人・自治会・行政が一体となって、快適な地域づくりに努める。
- ②地球の死活問題である「地球温暖化」について、問題の提起を行うとともに私たちに何ができるかを考える環境づくりに努める。

(2) 主な事業の展開方法

- ①道路や河川などへのポイ捨てや不法投棄の是正に努める。
- ②年二回行っている花一杯運動の協力者を増強し、美化を推進する。
- ③定められた「分別・出し方」の指導を徹底し、収集車の積み残しのないようにする。
- ④犬の糞の正しい処理方法について、啓発活動に努める。
- ⑤地球規模で大きな社会問題になっている「地球温暖化」の意識改革を行う。

(3) 具体的な事業と役割分担及びスケジュール

事業名	事業内容	新規	役割分担		主管	スケジュール		
			住民	協働		短期	中期	長期継続
公共施設美化事業	公民館清掃		○		利用団体			○
	公共施設美化事業		○		各団体			○
高屋川空き缶キャンペーン	高屋川空き缶・ごみ拾い			○	公衛委・自治連			○
	不法投棄防止啓発活動		○				○	
老人クラブ町内清掃	担当施設定期清掃		○		老人クラブ連合会		○	
	一斉清掃キャンペーン			○			○	
環境美化活動	花一杯運動		○		公衆衛生推進委員会・自治会連合会			○
	ばら花壇などの充実			○			○	
ごみ分別の徹底	研修会の実施			○			○	
	正しいごみ分別の啓発		○				○	
犬の糞処理対策	飼い主のマナー啓発		○		環境・衛生部		○	
	啓発看板の設置		○				○	
地球温暖化対策	グリーンカーテンの推進	○	○		環境・衛生部		○	
新規事業の発掘		○		○			○	

5. にぎわいと活力あるまちづくりの推進

(1) 基本的な視点

- ①活力ある地域づくりを目指して文化・体育・子育てなどいろいろなサークル活動が行われているが、サークル活動がまちづくりの原動力になるよう育成・支援する。
- ②魅力にあふれ、活力に満ちたまちづくりを推進するためには、諸事業・行事に積極的に参加する環境づくり、人づくりに取り組む。
- ③自治会独自で行っている「コミュニティ育成事業」の支援をして活性化を図る。
- ④新事業を発掘するために広くボランティアを求め「志縁チーム」をつくる。

(2) 主な事業の展開方法

- ①サークル活動で研鑽した成果の発表の場を提供する。
- ②自治会ごとに行っている「コミュニティ育成事業」の情報の共有化。
- ③「志縁チーム」を中心に新規事業の発掘。

(3) 具体的な事業と役割分担及びスケジュール

事業名	事業内容	新規	役割分担		主管	スケジュール		
			住民	協働		短期	中期	長期継続
コミュニティ育成事業の充実支援	コミュニティ事業支援		○		総務広報・自治連		○	
	事業情報の共有化		○				○	
多目的広場の有効利用	利用範囲の拡大		○		多目的子ども広場運営委	○		
	設備の整備充実			○				○
新規事業の発掘	志縁チームを中心に検討	○	○		まち推委		○	

第四章 その他の課題

○行政と協働で解決するもの

(アンケート調査における自由記述欄での要望事項の主なもの)

- (1) 子どもや高齢者が安心して遊べる公園・広場がないので作ってほしい。
- (2) 道路が狭く危険である。
- (3) 川南地区の区画整理を早期に実現してほしい。
- (4) 早急に下水道をつけてほしい。
- (5) 区画整理事業を白紙にして現状の道を少し広くしてほしい。
- (6) 中学校も給食をしてほしい。
- (7) 放課後児童クラブを6年生まで見てほしい。
- (8) 吉野山公園は小さい子の遊具がない。桜の木も老木のため枯れている木が多い。
- (9) 池は多くあるがフェンスがないので危険である。安全対策をしてほしい。
- (10) 災害発生時の避難場所を考えてほしい。

第五章 まちづくり計画の推進体制

1. 推進方法

- (1) この計画を着実に実現するために、住民一人ひとりが参加し、住民ぐるみの「協働のまちづくり」を展開する。
- (2) 広く住民に対し、まちづくりの役割や関心を高め、正しい理解と認識を得られるよう関係者が一体一丸になって啓発や交流に取り組み、まちづくりの合意形成に努める。

2. 推進体制の整備

- (1) 計画の円滑な推進や住民から寄せられた声を実践するために、関係機関・団体・住民等との緊密な連携をとり、柔軟に活動する体制の整備。
- (2) 自治会や住民と情報の共有化により、相互協力体制の構築を図る。

3. 推進体制

部 会 名	団 体 名	部 会 名	団 体 名
安全・防災部 (13名)	自主防災組織	健康・福祉部 (13名)	福祉を高める会(ボランティアの会)
	交通安全自治会		第32区民生児童委員協議会
	交通安全推進隊		障がい者の会
	学校防犯VR連絡協議会		食生活改善推進員協議会
	第32区民生児童委員協議会		学校防犯VR連絡協議会
	体育会		多目的・子ども広場運営委員会
	神辺小学校		体育会
	神辺小学校PTA		老人クラブ連合会
	神辺西中学校PTA		グラウンドゴルフ実行委員会
	深安防火協会神辺支部		走ろう会
	福山市消防団神辺分団		神辺イーグルス少年野球クラブ
	行政職員の会		行政職員の会
	自治会連合会 副会長		自治会連合会 副会長
環境・衛生部 (7名)	公衆衛生推進委員会	教育・文化部 (13名)	人権啓発推進協議会
	女性会		青少年育成員協議会
	明るいまちづくり委員会		子ども会育成協議会
	行政職員の会		神辺小学校
	ふれあいボランティア絆の会		ふれ愛ボランティア絆の会
	自治会連合会 会計		神辺小学校PTA
	自治会連合会 事務局長		神辺西中学校PTA
総務・広報・ コミュニティ 育成部 (6名)	まち推委 事務局長		女性会
	会計・多目的広場運営委員会		神辺公民館
	行政職員の会		神辺二上り保存会
	神辺公民館		おやじの会
	明るいまちづくり委員会		行政職員の会
	自治会連合会 副会長		自治会連合会 副会長



神辺学区まちづくり計画

2015年(平成27年)6月策定
神辺学区まちづくり推進委員会